

伝えたい 由布のもの NO.6



〈取材・文〉
岡田鹿乃子
Okada
Kanakoko

継承したい由布の豊かな暮らし

今回の〈伝えたい由布のもの〉は由布市の環境についてです。庄内町柿原にお住まいの平野武士さんの〈継承したい由布の豊かな暮らし〉を紹介します。

平野さんは庄内町出身で、農薬や化学肥料、堆肥を使わずに自然栽培でお米や梨を育てています。長年由布市に住み続けている平野さんは「由布市は由布岳やくじゅう連山などの水源があり水が豊かです」と話します。そんな豊かな水を使い、父親が耕していた農地を受け継ぎ、自然栽培を行っています。お米や梨をメインにさまざまな果樹を育て、米こうじ、味噌、梨ジャム、柿酢、梅干し、しその花ふりかけなど両親や祖父母から教えてもらった手仕事を土台に経験を重ね、独自のレシピを作り上げています。

平野さんは生まれたときから柿原に住んでおり、今よりもっと豊かな由布市の環境を肌で感じてきたそうです。「昔は家の裏の水路にもカニやシジミやドジョウがいて、川にもドンコ、アブラメと呼ばれる小魚がたくさんいたのでそれを釣って食べていました」と言います。環境が変わり、そうした生き物がどんどん減ってきているのを悲しく思われています。そして、その頃のような環境を取り戻すために、まずは自分ができることを実践していこうと考えたそうです。

平野さんが暮らしや農業の中で大切にしていることは「食物連鎖との共生」です。「田んぼや梨農園を虫や動植物と共生する場に行っています」と言います。田んぼの水路は年中水を通すようにし、人のためだけでなく水中の生き物の生活の場を作っていきたいと考えているそうです。また、「できる限り生き物を殺したくないという想いから、田んぼでは草をすきこんで、ホウネンエビ、タニシ、カエル、イモリ、クモや鳥などたくさん生き物

東京都出身。進学・就職を経て2020年8月に由布市の地域おこし協力隊に着任。移住定住担当として活動しています。くねくねの山道を登り、鎖につかまり石段を登り、山の上の熊群神社を訪れました。神秘的な道のでした。

● 問い合わせ 総合政策課 ☎097-582-1158

の力を借りてお米を育てています。収穫量が少ないことがあっても、人と虫と鳥が3分の1ずつのバランスで食べるくらいでいいと思っています」と笑いながら話していました。

いま由布市の環境、そして地球の環境を守ることでできるぎりぎりのところまでできていると平野さんは感じています。「自然を守るには自然の力で守るしかありません」と、この土地の力を引き出すことを心がけているそうです。そして、いま住んでいる土地や教えてもらった技術は自分だけのものではなく、人や生き物、今後暮らししていくみんなのものだと考え、継承されています。「最近はやFUのパンフレットを見てもオーガニックのものを作ったり、調理したりする人が増えているように思うので、同じような考え方の人たちと健康や環境についての考え方を広めていきたいです」と話します。現在78歳。100歳まで元気に生きていくために自分の体にもまわりの環境にもよいことをめざして日々アクティブに活動しながら、知識や経験を次の世代に継承されています。平野さん、ありがとうございます！



〈伝えたい由布のもの〉を募集しています！

詳細は地域おこし協力隊ページをご覧ください。



▲由布市地域おこし協力隊